



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2012年 No.5

(通巻26号)

12月16日発行

2012年も残りわずかとなってきました。皆様方には、何かとお忙しくお過ごしのことと思います。今年度最後のニュースレターは、秋・冬のイベントの報告を中心にお届けいたします。お陰様で、バオバブの会は、今年度も多彩な活動を展開することができました。2013年度も、より一層のご理解、ご協力をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。厳しい寒さが続いております。どうか、体調に気をつけられ、お元気で新年をお迎えください。

★★★ 『よこはま国際フェスタ2012』 出展 ★★★

日時：2012年10月20日（土）・21日（日）10：30～16：00

会場：象の鼻パーク

主催：よこはま国際フェスタ2012プロジェクト

神奈川県最大規模の国際フェスティバルですが、バオバブの会も、任意団体設立以前から数えて、7回目の出展となりました。今年は、両日共、晴天に恵まれ、過去最大の来場者を記録しました。

バオバブの会は、世界の食ゾーンに出展し、セネガル料理（マフェ、ヤッサ、ベニエ、アターヤ）の他、ケベサック、アフリカ関連児童書他を販売しました。

ブース内では、展示による活動報告も行いました。

また、来年6月にTICAD5（第5回アフリカ開発会議）が横浜で開催されることをふまえ、テーマのひとつに『アフリカと友だちになる』がかかげられ、アフリカ・ゾーンやアフリカ支援寄附が企画されました。バオバブの会も、アフリカ支援団体のひとつとして、ご寄附をいただくことができました。

スタッフとして参加して下さった皆様、ご来場の皆様、大変にありがとうございました。

♥♥♥ 『世界の教室 セネガル編』 参加 ♥♥♥

日時：2012年11月11日（日）14：00～15：00

会場：あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）5階こどもの国際理解展示室

主催：あーすぷらざ

子どもたちの国際理解を深めるために、毎月、開催されている「世界の教室」の11月度を、「セネガル編」ということで、バオバブの会が企画協力させていただきました。

ディウフ会長が、あーすぷらざのスタッフと一緒に、ゲーム形式によるセネガルの暮らしや文化の紹介、ポリポゲーム、映像を使つての絵本の読み聞かせを行いました。

約20組の子どもたちとお父さん、お母さんが集まり、楽しいひとときとなりました。

終了後、バオバブの会の活動とケベサックの紹介も行いました。

★★★ 『福引き2012』報告 ★★★

募金活動の一環として、バオバブの会創立以来6回目、任意団体移行後からは2010年に続き3回目の福引きイベントを行いました。福引きチケットは、10月初旬の販売開始から12月2日の抽選パーティー当日までに、270枚を販売することができました。ご協力、大変にありがとうございました。

イベントの締めくくりとして、福引き抽選パーティーを、12月2日(日)16:00~18:00、渋谷区神宮前のニューロカフェ東京で、33名の参加者を得て開催しました。

パーティーは、16:00を少しまわったアフリカ時間でスタート。

ディウフ会長の挨拶の後、お茶とお菓子でくつろいだ雰囲気の中、JICA 青年海外協力隊員OBのOさんによる「学校の子どもたち」と題したセミナーを行いました。Oさんは、2005年7月から2007年3月まで、セネガルのカオラック州カフリン(当時。現在はカフリン州カフリン)で、小学校教員として活動しました。セミナーでは、その体験に基づき、たくさんの写真を使って、セネガルの学校と教育の状況、子どもたちの様子を紹介。日本とは大きく異なる教育環境と教育観が興味深く、また、その中でのOさんの奮闘ぶりに感銘を受けました。

その後、ディウフ会長手作りのチキン・ヤッサのクスクス添えを会食。とてもおいしかったです。

続いて、ディウフ会長が、前回の福引きパーティー以降、今秋までの支援活動の報告を行いました。この2年間は、サーバシ・チャム小学校の図書館開館、教員グループを通しての障がい児支援開始、ンジャゴ小学校の教室新設、ンジャゴ小学校とサルム・ジャネ中学校のベンチ付き長机等、数多くの成果をあげることができました。

そして、いよいよ、福引き抽選!! たくさんの魅力的な賞品を前に、楽しく、かつ、厳正に行われました。

抽選券を整理している間、ゴスペルユニット「anoano (Hさん、Kさん、Eさん、運営委員の田口さん)」&ジャンベ隊「ベンジャミン」によるミニライブを楽しみました。演奏は「Pride」「World in Union」「きよしこの夜」「Until We Meet Again」「Amazing Grace」の5曲。最後は、ジャンベのリズムに乗ってHさんが踊り、それにディウフ会長が加わり、参加者の皆さんも一緒に手を叩いたり踊ったりして、大いに盛り上がりました。

その後で当選発表と賞品贈呈を賑やかにを行い、お開きとなりました。

終了後、会場ビルのオーナー様より、「とても楽しくて良いパーティーでした。是非、また来てくださいね!」というお言葉をいただいたことをご報告しておきます。

賞品と当選人数は下記の通りです。今回は、この10月にセネガルを訪問した、会員の柳田さんのセネガルみやげ(*印)を中心に用意しました。

等	賞品名	当選人数
1	*砂絵大 ♥砂絵はセネガルの伝統的工芸品。今回の砂絵は自然の砂だけで制作されたものです。	1人
2	ケベサック大 or ケベサックタイランド	6人
3	*砂絵中 ♥砂絵はセネガルの伝統的工芸品。今回の砂絵は自然の砂だけで制作されたものです。	2人
4	セネガルの音楽CD	2人
5	バオバブ・ピュア・ゴールドオイル ♥石けん購入元の(株)エコロジーヘルスラボ http://www.ehl.co.jp/ 様よりご寄附いただきました。	3人

6	バオバブ&シアー・プレミアム生石けん ♥バオバブは、シアバターに続くアフリカ発の健康・美容材料として注目されています。	3人
7	*ネックレス大	2人
8	*ネックレス小	2人
9	ケベサック小	3人
10	(ケベサック) ポーチ大	3人
11	木彫り人形	4人
12	絵本	5人
13	(ケベサック) ポーチ中	5人
14	*キーホルダー ♥石と貝でセネガル特産「蛸」を形作った、なかなか珍しいものです。	18人
15	アフリ缶バッヂ	16人

等外のテランガ賞は、会員のWさんの原画によるポストカード3枚組、「セネガル三景」でした。

♥♥♥ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ♥♥♥ 第6回『感謝』

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ (訳・文責 水野)

今回は、まず最初に、このシリーズの中でご紹介してきたものの中で、何人かの方々からご質問をいただいたひとつのことわざについて、ご説明しようと思います。それは、私とその少し皮肉な調子が面白いと思ひ、前回(2012年No.5のニューズレターの「ことわざで開く、アフリカ文化の窓」第5回『憎しみ』)の後記で紹介しました、コンゴ民主共和国のルルワ人のことわざ、「森の中に罾を仕掛けすぎると、森の持ち主を罾にかける恐れがある」です。

このことわざを理解する鍵となるのは、「森の持ち主を罾にかける」という言葉だと思います。これは、「森の持ち主が罾にかかったことで、持ち主の知らないうちに森に入り込んで獵をしようとしていたことが、暴かれてしまった」と考えればいいのではないのでしょうか。たくさん罾をかけて獸をつかまえていた人の前に、突然、大きな頭が現れて、「いったい、誰に断って、俺様の森で獵をしようとしてるんだ!」と言ったら、その人はどんな顔をするか、想像すると、笑いがこみ上げてきます。

しかし、それでもなお、「森の持ち主」という言葉に違和感を覚える方がいるかもしれません。それは、昔のアフリカの、草木が日差しを遮るばかりに生い茂った広大な森、現在のように、森の資源の開発を統制する為の法律がある(なかなかうまくいっていないようですが)わけではない森のことを思い浮かべれば、当然でしょう。

当時のアフリカの森はみんなのものであり、誰か特定のものではありませんでした。主婦たちは、森で、薪にする木の枝を拾い、料理の材料になる木の葉や実や草を探しました。家の主は、住いを作る木材を得る為には森に入ったり、子どもたちを採りに行かせたりしました。療法師は、病の人を癒す為には、木の葉や皮や汁や根を探しました。事実、森には、様々な体の病気ばかりか、精神の病まで治すことのできる草木があったのです。また、このことわざが指している人は獵師ですが、彼等は、森で、小さな獸や鳥を捕る為の罾をかけるだけでなく、もっと大きな動物の狩猟にも挑みました。そこには、毛皮や角や牙を売る目的と共に、神秘的な理由、つまり、野獸の強大な力を我がものにしたい、という願いもありました。このように、昔は、誰も、自分たちのものでない森の資源を横取りしている、などとは考えませんでした。それどころか、自分たちのものを使っているのだ、と信じていたのです。

が、私は、そのように特定の「持ち主」などいない森に自由に入るときであろうと、「持ち主」がいる森に密かに (!!) 入ろうとするときであろうと、絶対にやってはいけないことは、「遠慮もなく、やりすぎる」ことだ、というのが、このことわざの真の意味ではないかと思えます。つまり、大事なことは「遠慮」であり「慎み」である、と。

「遠慮」や「慎み」は、とりわけ人間関係において重要なものとなります。仕事の場においても、政治的対立の場面でも、異なる人種や民族や宗教間の争いの渦中でも、さらに最終的な勝利を得る為でさえ、不可欠なものではないでしょうか。そして、社会の中での「遠慮」や「慎み」を考えると、このことわざが示唆するものはより広がってくるように思います。つまり、抵抗や対立より「協力」を、狂信やセクト意識でなく「寛容」を、非難や復讐でなく「赦し」を、声高に言い立てることより「一歩控える態度」を、露骨さでなく「節度」を持つべきである、というふうな。実際、このようなものがなければ、人は、結局、自らの過激さの犠牲になってしまうものなのです。

以上が、このことわざの、私の解釈です。もし、他の解釈やもっと良い説明のできる方がいらっしゃいましたら、是非教えてください。



前置きが長くなってしまいましたが、今回のテーマは「感謝」です。

バオバブの会が活動を始めてからの15年目、そして、正式な任意団体として再出発してからの5年目が、もうすぐ終わろうとしています。この1年も、先日、活動開始以来6回目の福引きイベントを成功裡に終了することができただけでなく、多くの活動を展開し、成果をあげることができました。

思えば、なんと多くの個人、またグループの皆様が、この歩みを支えてくださっていることでしょうか。私は、なんと多くの人々に、私と私の国の子どもたちへの支援に対する感謝の気持ちを抱いていることでしょうか。私が支援という言葉を使うとき、それは、単に、金品や実際の行動での支援だけを意味しているのではありません。というのは、私の心の中には、私がこの活動を始めたときからしばしばいただいていた言葉、「頑張ってください！」が、まるでたった今聞いたもののよう、鮮やかに響いているからなのです。そして、この励ましの言葉は、いつでも、いつまでも、私の心を熱く燃え立たせてくれています。

それなのに、私は、抱いている思いの大きさにふさわしい感謝の言葉を、どうしても見つけることができません。そこで、私は、皆さまに、「MERCI ありがとう」というひとことだけを申し上げます。皆様が、この単純すぎる言葉の中から、私の言葉にならない思いを汲み取ってくださるよう、切に願いながら。カメルーンの人々が、飼い犬の振る舞いの中に、その思いを見つけるように。

「犬はその主人に贈れるものがないので、尻尾を振る」。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 E-mail : hajmass@hotmail.com

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行 八重洲通り支店普通口座

no.1523673 ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215